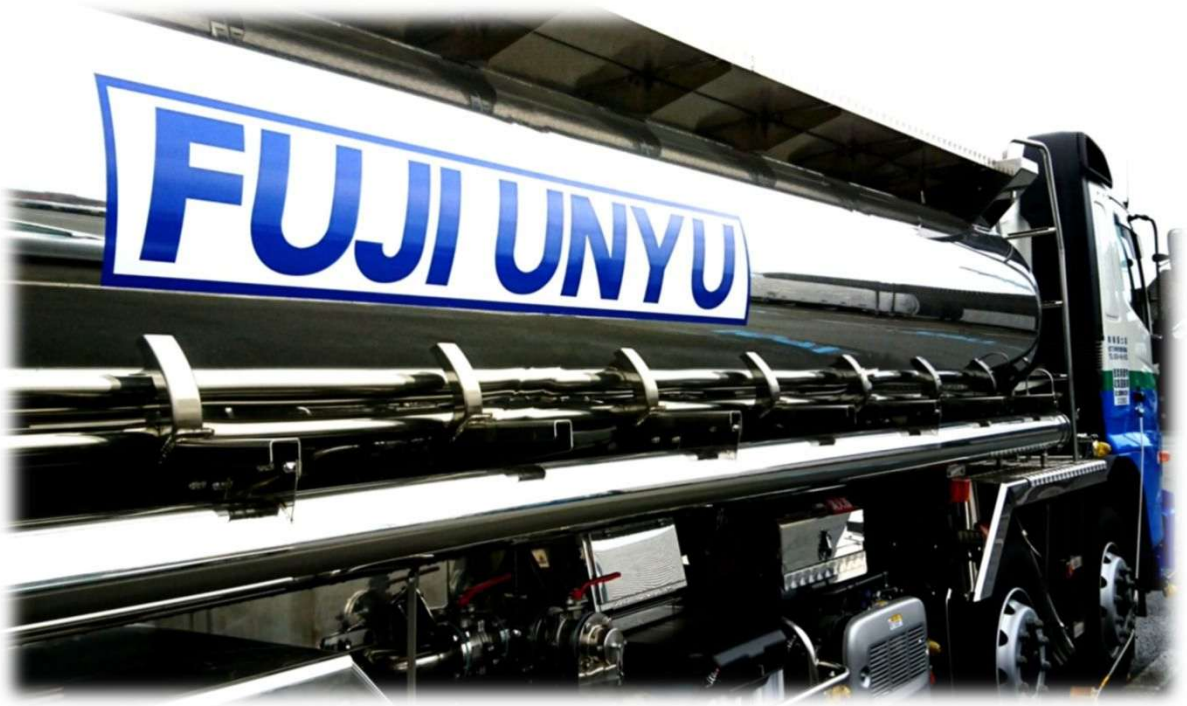
®環境省
エコアクション21
認証番号0011220

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間:2025年4月～2026年3月



富士運輸株式会社

発行日:2026年 4月 13日

1　取組の対象組織・活動

社　　名	富士運輸株式会社
代 表 者 名	阿部　悦雄
所　在　地	本社:　〒756-0847　山口県山陽小野田市新沖3丁目1番13号 北九州営業所:　〒801-0821　福岡県北九州市門司区大字黒川字長谷961番1
環境管理責任者	上野　順司　　0836-88-0153

事業内容
一般区域貨物自動車運送事業
産業廃棄物収集運搬業
特別管理産業廃棄物収集運搬業
不動産賃貸業
太陽光発電事業

創　　立	昭和39年7月27日
資　本　金	1,000万円
従 業 員 数	62名
事 業 年 度	4月から翌年3月
売　上　高	933百万円(2025年度)
敷 地 面 積	9,825m^2
太陽光発電施設規模	・本社　10kW　・本社カーポート　7.6kW ・東須恵倉庫　45kW　・川上発電所　330kW
認証・登録範囲	全組織・全活動

２ 環 境 経 営 方 針

【 基本理念】

富士運輸株式会社は、深刻化する環境破壊を防止するため、企業活動のあらゆる面で環境保全活動を積極的に推進させ、輸送サービスの提供という事業活動から生ずる環境負荷を継続的に改善し、環境経営を推進します。

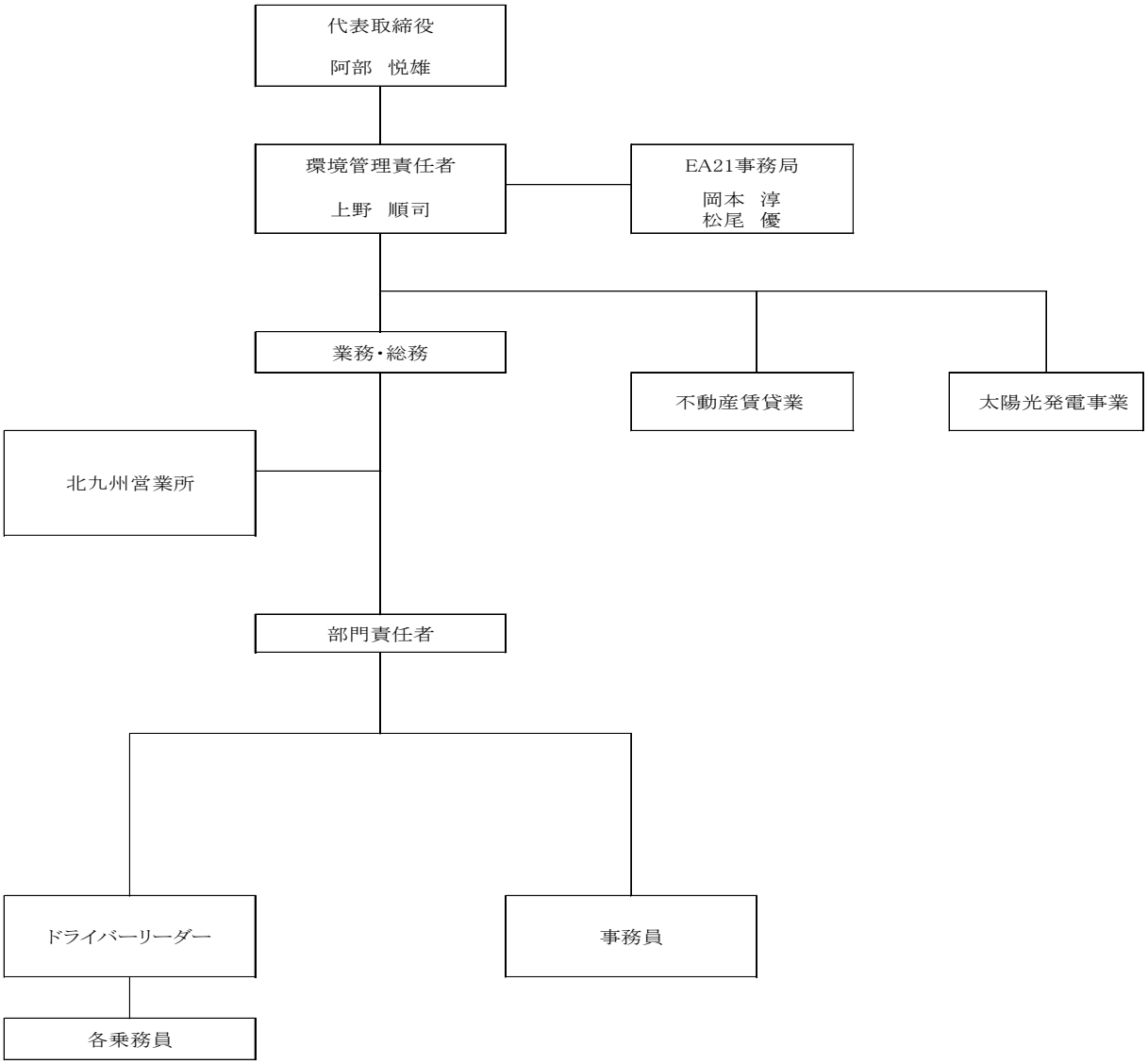
【行動指針】

① 法令を遵守し、環境保全に努めます。
② 物流サービスの提供に際し、地球温暖化対策を行います。
③ エコドライブ・エコオフィスなど省エネルギー運動を推進します。
④ 環境保全に関する教育と啓蒙活動を実施します。
⑤ 廃棄物の適正処理を行い、5R運動を推進します。
・ Refuse（リフューズ）：過剰包装など、ごみになるものを断る
・ Reduce(リデュース)：買う量・使う量を減らす。
・ Reuse(リユース)：ゴミにしないために繰り返し使う。
・ Recycle(リサイクル)：捨てる時は資源にして再利用する。
・ Repair(リペア)：修理して持続的に使う。
⑥ 本方針は文書化しホームページに記載するとともに、社外から要求があれば開示します。
⑦この方針は様々な機会を通じて全ての従業員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

制定　2016年4月1日
改訂　2024年4月1日

富士運輸株式会社
代表取締役社長　　阿 部　悦 雄

3 実施体制



責任者	役割
代 表 取 締 役	環境方針の策定を行い、EA21の取組状況の評価・見直しおよび必要な指示を行う。
環境管理責任者	代表取締役の指示を受けEA21を構築・維持するとともに運用状況を報告し必要な指示を行う。
ＥＡ２１事 務 局	データを集計・解析し、見直しに必要なデータの報告を行うとともに環境レポートの作成を行う。
各 部 門 責 任 者	環境管理責任者の指示を各部門員に指示・伝達し環境方針に則り業務を遂行させる。

4. 環境経営目標と当年度実績とその判定、及び、次年度の環境経営目標

(1) 本社

項　目		単位	2024年度	2025年度			2026年度	2027年度	2028年度
			実績値（基準値）	目標値（基準値比）	実績値（目標値比）	目標の評価	目標値（基準値比）	目標値（基準値比）	目標値（基準値比）
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	2,354,468	2,144,920 以下	2,136,490	○	2,119,021 以下	2,071,932 以下	2,048,387 以下
				(△8.9%)	(△0.4%)		(△10.0%)	(△12.0%)	(△13.0%)
1-1	電力使用量の削減	kWh	116,436	115,272 以下	115,104	○	114,107 以下	112,943 以下	111,779 以下
				(△1.0%)	(△0.1%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)
1-2	軽油使用量の削減	L	891,103	882,192 以下	806,895	○	793,082 以下	784,171 以下	775,260 以下
				(△1.0%)	(△8.5%)		(△11.0%)	(△12.0%)	(△13.0%)
1-3	燃費の向上	km/L	3.34	3.44 以上	3.5	△	3.4736 以上	3.5070 以上	3.5404 以上
				(3.0%)	(1.7%)		(4.0%)	(5.0%)	(6.0%)
1-4	ｶﾞｿﾘﾝ使用量の削減	L	3,190	3,158 以下	2,615	◎	3,126 以下	3,094 以下	3,062 以下
				(△1.0%)	(△17.2%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)
1-5	灯油使用量の削減	L	6,310	6,247 以下	6,820	×	6,184 以下	6,121 以下	6,058 以下
				(△1.0%)	(9.2%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)
2	ｳｴｽﾘｭｰｽ品率	%	-	(100.0%)	(100.0%)	◎	100%	100%	100%
3	低公害車新車導入率	%	100	100 以上	100	◎	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上
				(0.0%)	(0.0%)		(△99.0%)	(△99.0%)	(△99.0%)
4	水使用量	m^3	1,988	1,968 以下	2,017	△	1,948 以下	1,928 以下	1,908 以下
				(△1.0%)	(2.5%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)

判定:　◎:削減・増加率10%超　○:10%以下～0%以上　△:0%未満～10%増　×:10%超・増

※1　電気使用量排出係数並びに購入電力の排出係数は中国電力2021年度0.545kg-CO_2／kWhを使用しました。

※2　化学物質の使用はないので目標に掲げていません。

※3 1－3の燃費については、重要項目として2019年度から新設しました。

4. 環境経営目標と当年度実績とその判定、及び、次年度の環境経営目標

(2) 北九州営業所

項　目		単位	2024年度	2025年度			2026年度	2027年度	2028年度
			実績値（基準値）	**目標値（基準値比）**	**実績値（目標値比）**	**目標の評価**	目標値（基準値比）	目標値（基準値比）	目標値（基準値比）
1	**二酸化炭素排出量の削減**	kg-CO_2	296,396	**270,017 以下**	**341,242**	×	266,756 以下	260,828 以下	257,865 以下
				（△8.9%）	**（26.4%）**		（△10.0%）	（△12.0%）	（△13.0%）
1-1	電力使用量の削減	kWh	6,034	**5,974 以下**	**6,776**	×	5,913 以下	5,853 以下	5,793 以下
				（△1.0%）	**（13.4%）**		（△2.0%）	（△3.0%）	（△4.0%）
1-2	軽油使用量の削減	L	113,621	**102,259 以下**	**130,972**	×	101,123 以下	99,986 以下	98,850 以下
				（△10.0%）	**（28.1%）**		（△11.0%）	（△12.0%）	（△13.0%）
1-3	燃費の向上	km/L	3.35	**3.45 以上**	**3.27**	×	3.4840 以上	3.5175 以上	3.5510 以上
				（3.0%）	**（△5.2%）**		（4.0%）	（5.0%）	（6.0%）
1-4	ｶﾞｿﾘﾝ使用量の削減	L	346	**343 以下**	**251**	◎	339 以下	336 以下	332 以下
				（△1.0%）	**（△26.7%）**		（△2.0%）	（△3.0%）	（△4.0%）
2	水使用量	m^3	25	**25 以下**	**74**	×	25 以下	24 以下	24 以下
				（△1.0%）	**（199.0%）**		（△2.0%）	（△3.0%）	（△4.0%）

判定：　◎:削減・増加率10%超　　○:10%以下～0%以上　　△:0%未満～10%増　　×:10%超・増

※1　電気使用量排出係数並びに購入電力の排出係数は九州電力2023年度0.406kg-CO_2／kWhを使用しました。

※2　化学物質の使用はないので目標に掲げていません。

※3 1－3の燃費については、重要項目として2019年度から新設しました。

5　2025年度　環境経営計画

（本社・北九州営業所共通）

1．二酸化炭素排出量の10％削減

取組項目		活動項目
1	電気使用量の削減	1 冷暖房温度の徹底管理 （冷房26℃、暖房22℃）
		2 フィルターの定期的な清掃
		3 残業時の不要な照明の消灯
		4 PCを省電力設定で使用
		5 買替の際は、省エネ機器に更新
2	燃費向上 軽油・ガソリン使用量の削減	1 エコドライブの励行
		2 アイドリングストップの厳守
		3 配車計画の合理化
		4 急発進・急加速・急ブレーキ不要の運転
		5 不要荷物の積み込み禁止
3	灯油使用量の削減	積込スケジュールの調整

2．4R運動

取組目標	活動項目
ウエス　リユース品 100％	ウエス　リユース品利用

3．低公害車の導入　100％

取組目標	活動項目
台数の増加	低公害車導入の推進

4．水使用量の1％削減

取組目標	活動項目
水使用量の削減	細かい節水に努める

6　2025年度環境経営計画の取組結果と
その評価、次年度の取組内容

活動項目	取組結果及び評価	次年度の取組内容
総合評価	二酸化炭素排出量は目標値に対し本社では0.4%削減で目標達成できた。弊社の環境負荷は貨物輸送で発生する二酸化炭素の排出が主であり、軽油使用量が8.5%減ったことが最大の要因と考えられる。また、本社車両のみでは燃費の改善もありエコドライブの呼びかけも一定の効果が出ている。北九州営業所に関しては、ガソリンや水の使用量では大きく目標を達成できたが、仕事量の増加により、環境負荷の大きい軽油使用量とそれに関わる燃費の悪化した。二酸化炭素排出量の目標を達成できなかった。	総合的な環境対応を可能にするため、各社員の環境に対する意識をさらに高める。低公害車導入と併せ、二酸化炭素排出量で大きなウエイトを占める軽油使用量削減の為エコドライブへの意識を高め、燃費改善に努めていく。また、引き続き、各太陽光発電設備の発電量維持の為に、監視、維持管理に努めていく。北九州営業所に関しては仕事量の増減による環境変化が大きいが、燃費向上に向けてエコドライブを推進して行く。
電力使用量の削減	電気使用量では本社では目標を達成できた。ただし、北九州営業所では目標を達成出来なかった。要因としては、外灯増設等もあるが、7月からの前年度を超える気温上昇等が考えられる。	本社では引き続き、こまめな節電を行うとともに、各太陽光発電設備の維持管理に努めていく。北九州営業ではエアコンタイマーをしっかり活用する。
軽油使用量の削減	本社の動いていない予備車両を北九州へ移したことで、仕事量の増加につなげれた。ただし、軽油使用量の増加にもつながり、北九州営業所では目標達成することが出来なかった。	引き続き、燃費向上を追求しながら、安全運行に努めるよう、教育していく。
ガソリン使用量の削減	ガソリンの使用量は本社、北九州ともに目標を達成できた。要因として、各社の安全会議のリモート化と合わせ、外出時の効率化が図れていた。	引き続き、外出の際の社有車の燃料使用を抑えるため、効率的なルートで回れる様考えていく。
燃費の向上	本社では燃費が3.44km/ℓに対し3.5km/ℓと目標を達成できた。ただし、北九州営業所では、3.35km/ℓに対し3.27km/ℓと目標達成できなかった。要因としては、距離が長い運行が減ったりと、配送環境の変化も考えられる。	安全衛生会議で、各部門毎の燃費を公開しエコドライブの推進を促していく。配送環境が大きく変わる中でも引き続き、燃費の向上は追求しつつ、併せて安全運行に努めるよう、教育していく。 無駄なアイドリングの防止等、次年度も引き続き呼びかけて行く。
灯油使用量の削減	灯油使用量は基準値、目標値ともに増加。弊社で一番灯油を消費するアスファルトの運搬では、昨年度より運搬量は若干減ったが、冬場のアスファルトの運搬量だけで見ると昨年より増えた為、使用量増加につながった。	可能な限り、電気で加温できる車両を活用する。
ウエス・リユース品	ウエスのリユース品使用率100%。	引き続き、ウエスはリユース品を使用する。
低公害車導入	低公害車の購入は目標達成できている。2025年度は既存の車両3台を売却し、新車を購入している。また、パトロールカーもこの度1台ガソリン車からハイブリッドカーへ買換えを行った。環境への意識の向上とともに、燃費等に与える影響も大きく、更なる購入を計画的に実施する。	予算を考慮しつつ、代替えにて環境対応を徹底する。 また、不要な車両の処分等を行う。
水使用量の削減	水使用量は基準値2024年度が1998㎥。2025年度が2017㎥となり微増している。要因として今年度はタンクの洗浄回数が増えた事が、使用量増加につながった。	洗車機、ホースノズル等の維持管理に取り組む。こまめな節水に努める。

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法の遵守状況をチエックの結果違反はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去50年間ありません。

適用される主な法規制	評価
廃棄物処理法	○
浄化槽法	○
フロン排出抑制法	○
消　防　法	○
毒物及び劇物取締法	○

8　代表者による全体評価と見直し・指示の結果

評価および見直しの実施年月日		2026年4月14日
評価者名(代表者名)		阿部　悦雄
評価及び見直しに参加した人		阿部　悦雄, 岡本　淳
評価	環境経営システムが有効に機能しているか	軽油使用量は、前年度2024年と今年度2025年は、本社では89万ℓから80万ℓ。北九州営業所では11万ℓから13万ℓとなっている。2025年度期中に本社の車両2台を北九州営業所に移動させており、単純な比較は出来ないが、会社全体では100万ℓから93万ℓとなり7%減少している。しかしながら、燃費では会社全体で2024年は3.34km/ℓ。2025年は3.29km/ℓとなっており、1.5%悪化している。 安全衛生会議や各会議で無駄なアイドリングストップや、燃費走行の重要性を伝えていき、燃費の改善を図る。
	環境への取組は適切に実施されているか	二酸化炭素総排出量は、目標を本社は達成しているが北九州営業所は達成出来ていない。会社全体では、目標値2,414,937kg-CO_2に対して実績値2,477,732kg-CO_2となっており、2.6%目標達成出来ていない。軽油の使用量の削減で、前年より削減できたものの、目標達成には至らなかった。今後も引き続き燃費向上により、環境への負荷を軽減させていく。
見直し(変更の必要性)	環境経営方針 変更の必要性	変更の必要なし
	環境経営目標 変更の必要性	基準年度を前年2024年に設定
	環境経営計画 変更の必要性	変更の必要なし
	実施体制 変更の必要性	変更の必要なし

9　許可の内容・施設の状況・処理実績

産業廃棄物

自治体	許可番号	許可年月日	許可期限	
山口県	第03506012583号	平28年11月1日	令和10年10月31日	
広島県	第03400012583号	平23年10月26日	令和8年10月25日	※2026.7頃更新申請取り掛かり予定
岡山県	第03300012583号	平29年8月15日	令和13年7月31日	
島根県	第03200012583号	平30年7月10日	令和14年5月24日	
鳥取県	第03104012583号	令6年4月15日	令和11年4月14日	
福岡県	第04000012583号	平29年7月30日	令和13年7月29日	
大分県	第04402012583号	平27年10月19日	令和9年10月18日	
熊本県	第04305012583号	平27年10月6日	令和9年8月10日	

特別管理産業廃棄物

自治体	許可番号	許可年月日	許可年月日	
山口県	第03556012583号	平成27年12月1日	令和9年11月30日	
広島県	第03450012583号	平成28年10月26日	令和8年10月25日	※2026.7頃更新申請取り掛かり予定
島根県	第03250012583号	令和6年3月27日	令和11年3月26日	
鳥取県	第03154012583号	令和6年4月15日	令和11年4月14日	
福岡県	第04050012583号	平成29年10月23日	令和13年10月22日	
大分県	第04402012583号	平成31年3月14日	令和13年3月13日	
熊本県	第04355012583号	平成29年5月12日	令和13年3月4日	
千葉県	第01250012583号	令和4年7月28日	令和9年7月27日	

廃棄物の種類		山口県	広島県	岡山県	島根県	鳥取県	福岡県	大分県	熊本県	千葉県
産業廃棄物	燃えがら	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	汚泥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	廃油	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	廃酸	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	廃アルカリ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	廃プラスチック類	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	紙くず	◎	◎	◎		◎		◎		
	木くず	◎	◎	◎		◎		◎		
	繊維くず	◎	◎	◎		◎		◎		
	動植物性残渣	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	ゴムくず	◎	◎	◎		◎		◎		
	金属くず	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	ｶﾞﾗｽ･陶磁器･ｺﾝｸﾘｰﾄ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	鉱さい		◎	◎		◎		◎		
	がれき類	◎	◎	◎	◎	◎		◎		
	ばいじん	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	13号廃棄物									
特別管理産業廃棄物	汚泥	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	廃油	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
	廃酸	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	廃アルカリ	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	ばいじん						◎	◎		
	感染性廃棄物	◎	◎		◎	◎				
	廃PCB等									
	廃石綿等	◎	◎		◎	◎	◎		◎	

・積替保管施設：なし

2025年度(2025年4月～2026年3月)

処理方法等		廃棄物等種類	収集運搬量(kg)	
			本社	北九州営業所
収集運搬	産業廃棄物	燃え殻		
		汚泥	1,514,600	
		廃油	1,113,600	275,800
		廃酸	131,300	
		廃アルカリ	4,425,800	96,300
		廃プラスチック類	32,800	
		紙くず		
		木くず		
		金属くず	7,200	
		水銀含有ばいじん		
		ばいじん	2,484,700	
		小計	9,710,000	372,100
	特別管理産業廃棄物	廃油(特管)	1,287,000	410,900
		廃酸(特管)		
		廃アルカリ(特管)		
		廃油(特管　有害)		
		廃アルカリ(特管　有害)		
		小計	1,287,000	410,900
収集運搬量		合　　計　　(t)	10,997	783

運搬車両の種類と台数

車　　種	車番	最大積載量/kg	備考
タンク	1396	10,800	
タンク	1691	11,000	
タンク	1889	10,080	
タンク	2674	11,280	
タンク	2790	11,280	
タンク	2823	11,520	
タンク	3005	11,220	
タンク	2850	11,160	8
ダンプ	1574	13,900	
ダンプ	554	12,400	
ダンプ	8774	10,600	
ダンプ	8808	10,900	
ダンプ	434	10,300	
ダンプ	548	9,500	6

14